

# 富山県内の野生イノシシにおけるSFTSウイルス および日本脳炎ウイルスの抗体保有状況調査

## 富山県衛生研究所

矢澤俊輔、佐賀由美子、鳶田嵩久、吉田琴羽、谷口咲羅、  
福山 圭、黒田真弘、谷 英樹、石田美樹、大石和徳

・本資料に含まれる一部の図（Googleマップを利用したもの）は、報道利用に際して各社の契約・ガイドラインに従ってご対応ください

# 本研究の目的

## 現状と背景

- ・野生動物は、感染症を媒介する蚊やマダニなどの節足動物と日々、接触する機会が多く、ウイルスに感染することで抗体を獲得していることが多い。
- ・そのため、こうした野生動物の血液中の抗体を調査することで、その地域における感染症の侵淫状況を把握することができる。



## 目的

本研究では、過去6年間に富山県内で捕獲された野生イノシシの血清を用いて、重症熱性血小板減少症候群ウイルス（SFTSV）および日本脳炎ウイルス（JEV）の感染歴（抗体保有状況）を調べ、これらのウイルスの県内侵淫状況を調査した。

# ○重症熱性血小板減少症候群

(Severe Fever with Thrombocytopenia Syndrome : SFTS)

- ・ SFTSウイルス (SFTSV) に感染することでヒトや動物が発症する。
- ・ マダニによって媒介されるが、増幅動物は不明である。
- ・ 発熱、消化器症状などを呈し、10~30%の方が亡くなる。
- ・ ファビピラビル (アビガン) が治療薬として承認 (2024年)、ワクチンなし

# ○日本脳炎 (Japanese Encephalitis)

- ・ 日本脳炎ウイルス (JEV) に感染することでヒトが発症する。
- ・ ウイルスはコガタアカイエカによって媒介され、ブタが増幅動物となる。
- ・ 100~1,000人に1人の割合で脳炎を発症すると考えられ、発症した場合、およそ20~40%の方が亡くなる。
- ・ 特化した治療法はなし、ワクチンあり (定期予防接種として実施)

# 調査方法

## ○検体

- ・ 2019年から2024年に豚熱検査用として富山県に提供されたイノシシ3,059頭から採取された血清※  
※豚熱陰性かつ提供自治体・施設より研究利用の同意が得られたものを使用  
※これらの検体には捕獲時の日時と座標軸が記録されている

## ○対象疾患（病原体）

- ・ 重症熱性血小板減少症候群ウイルス（SFTSV）、日本脳炎ウイルス（JEV）

## ○感染歴（抗体陽性）の判定方法

- ・ 1回感染性疑似ウイルスを用いたウイルス中和試験を行い、50%以上の感染阻止が認められた血清を抗体陽性と判断した。

# 結果①地域別SFTSV抗体陽性率と地理的分布図

- ・ 全体で3,059頭中76頭が抗体陽性（陽性率2.5%）となり、**年々増加傾向**
- ・ 地域別では県西部で抗体陽性率が高く、中でも**北西部から西部にかけての石川県境に集中していた**

年	西部 (%)	東部 (%)
2019	1.2	0.0
2020	1.4	0.0
2021	0.0	0.0
2022	1.6	0.0
2023	2.6	0.0
2024	6.2	1.4
計	<b>3.7</b>	<b>0.4</b>

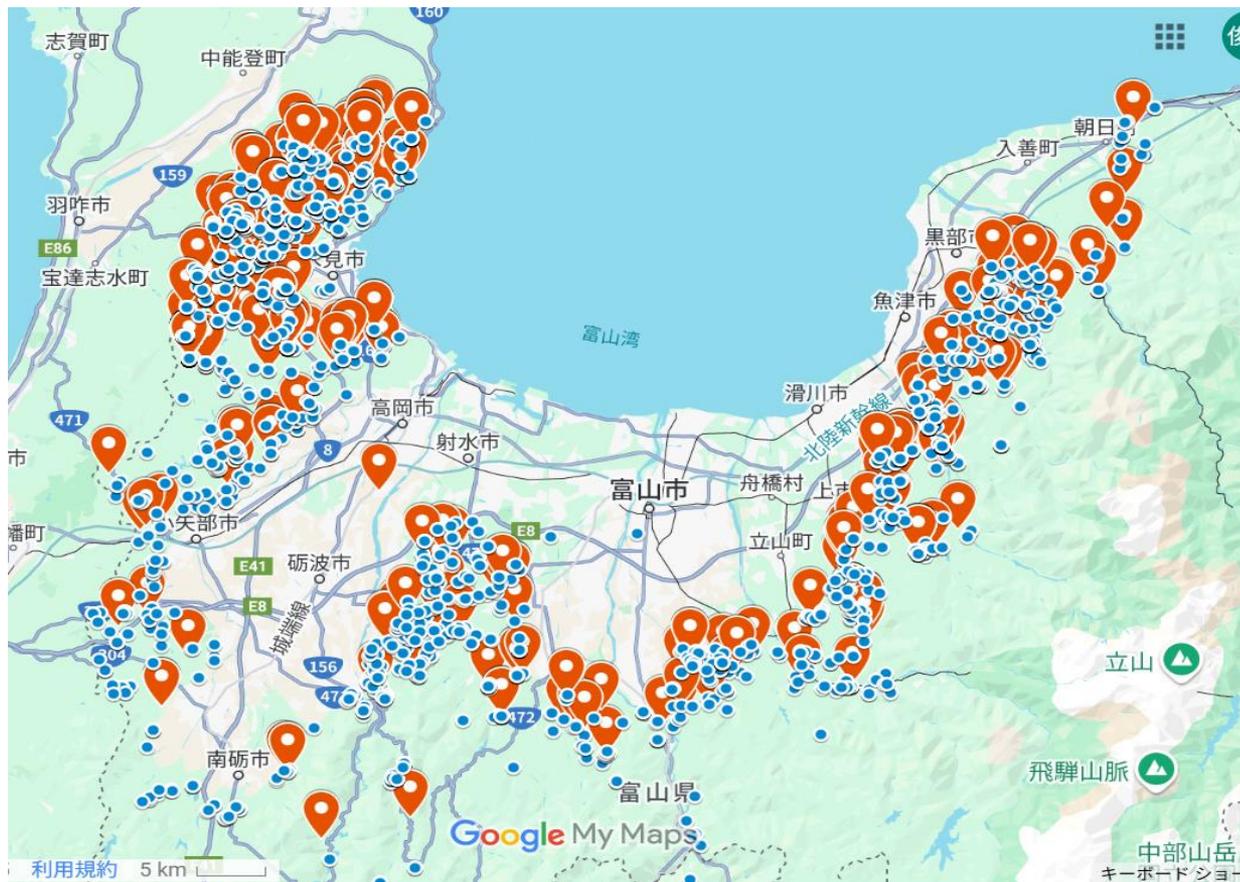


📍 抗体陽性      ● 抗体陰性

# 結果② 地域別JEV抗体陽性率と地理的分布図

- ・ 全体で3,059頭中426頭が抗体陽性（陽性率13.9%）となり、**年々増加傾向**
- ・ 地域間に差は無い
- ・ 富山県全域に陽性イノシシがいることが確認

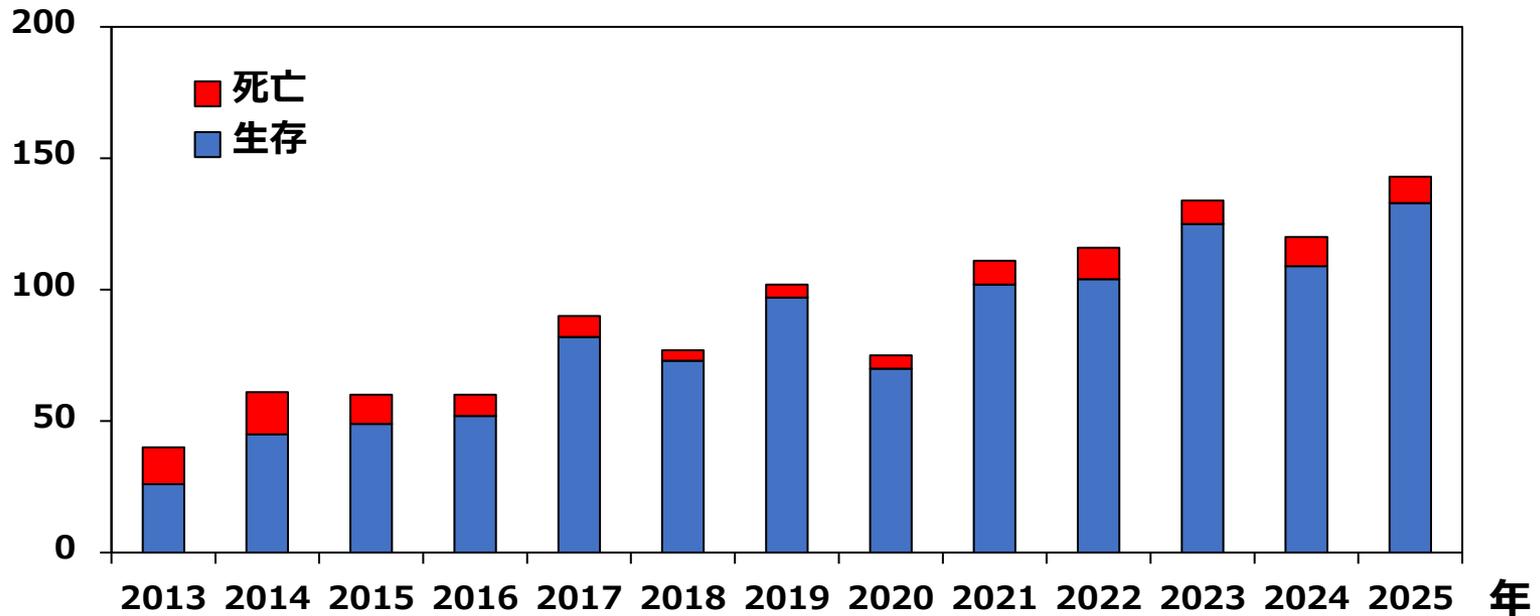
年	西部 (%)	東部 (%)
2019	3.5	4.9
2020	3.5	5.5
2021	14.4	9.0
2022	14.1	7.9
2023	6.8	18.5
2024	23.9	21.7
計	<b>14.2</b>	<b>13.5</b>



📍 抗体陽性
 📍 抗体陰性

# ヒトSFTS症例の国内報告状況 (2025.8.24現在)

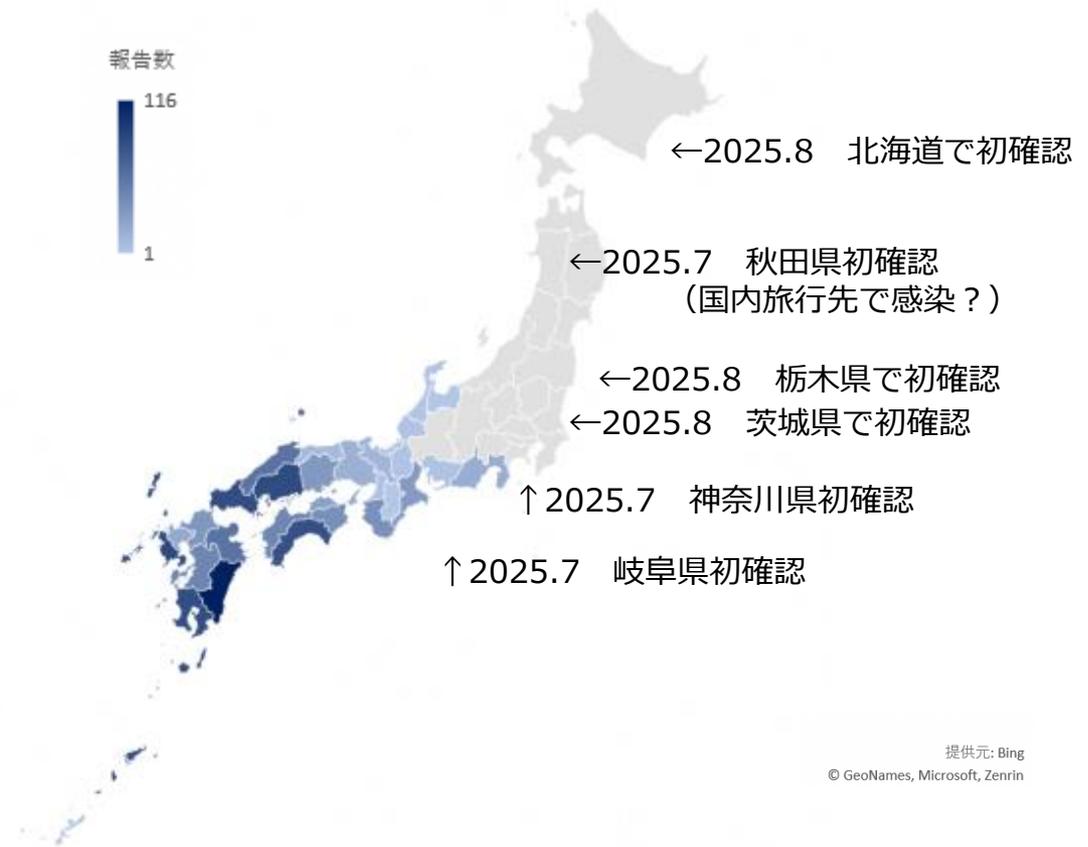
報告数



- ・ 2013年に国内初確認後、**年々患者数は増加傾向**。近年は年間100例以上発生。
- ・ 国内での届け出時点での**死亡の割合は10.3%**。
- ・ 8/24日時点の2025年の国内報告数は142人であり、**過去最多の報告数**。

# ヒトSFTS症例の推定感染地域別 国内報告状況 (2025.8現在)

- 2013 山口県で国内初症例  
以降西日本で多数症例を確認
- 2015 三重県、石川県初症例
- 2016 滋賀県初症例
- 2017 福井県初症例
- 2021 愛知県、静岡県初症例
- 2022.11 富山県初症例
- 2025.6 富山県2例目



- ・ 西日本を中心に発生しているが、年々東日本にも広がっている
- ・ 富山県は、患者発生・未発生地域の境界に位置する

# まとめ

- SFTSV、JEVともに抗体陽性率は年々増加傾向であり、特に2024年から大きく増加している。
- SFTSV抗体陽性イノシシは県内西部で増加傾向にあり、ダニの咬傷によるSFTSVの感染リスクが高まっていることを示唆している。
- JEV抗体陽性イノシシは県内全域で確認され、県内でのヒトへの感染リスクが考えられる。



- **野生動物での抗体保有状況を調査することで、調査地域におけるSFTSV、JEVのヒトへの感染リスクを知ることができた。**
- **今後、他の人獣共通感染症病原体についても同様に調査を進める。**

# SFTSの調査結果からの注意喚起

- 今回の調査では、イノシシの血清を用いたが、SFTSVは他の野生動物（アライグマ、シカ、タヌキなど）にも感染する。これまでの報告から、動物種によってSFTSV抗体陽性率は大きく異なっており、本調査以上にSFTSV陽性のマダニが広がっている可能性はある。
- 今回の調査結果では、西部の特定地域に抗体陽性イノシシが集中していた。しかし、国内の発生状況を踏まえると、いずれもしくはすでに県内全域にSFTSVをもつマダニが生息すると推測されるため、富山県全域で注意する必要がある。
- 今回の調査は、過去にSFTSVに感染したことがあるかを調べる調査であり、現時点でSFTSVに感染しているイノシシはもっと少ないと思われる。ただ、病気のイノシシやシカはSFTSVなどに感染している可能性があるため、そういった動物の取り扱いには気を付ける（特に、獣医療関係者、狩猟者、ジビエ処理施設従事者など）。
- イノシシを含めて、感染した野生動物を食べたとしても、十分に加熱処理してあればヒトに感染することはない。
- マダニに咬まれないようにするため、農作業や野山に入るときは服装や忌避剤などで対策する。もし咬まれたときは、マダニを引き抜かずなるべく医療機関を受診する。数週間体調変化を注視し、発熱等の症状が認められたら医療機関を受診し、マダニに咬まれたことを伝える。